Europe Indicators

発表日:2020 年 10 月 30 日(金)

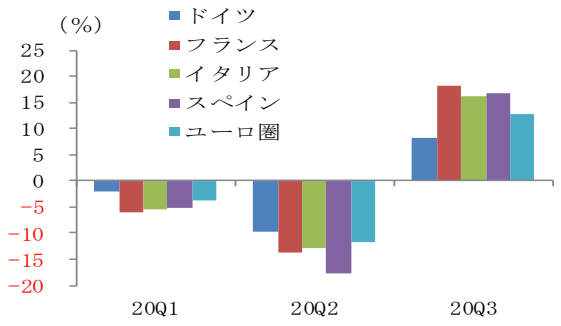
欧州経済指標コメント:7-9 月期ユーロ圏GDP速報

～束の間のV字回復も全く喜べない～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理(TEL:03-5221-4527)

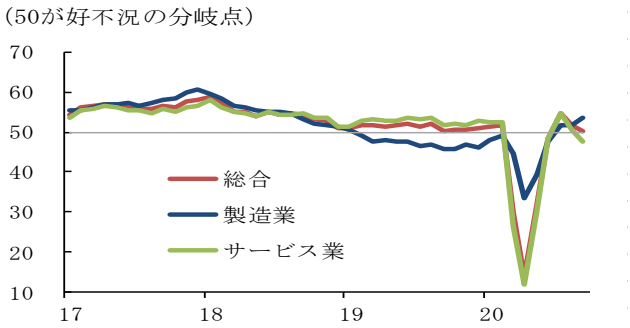
- 7-9月期のユーロ圏の実質ＧＤＰ成長率の速報値は前期比＋12.7%、同年率＋61.1%と、4-6月期（同▲11.8%、同年率▲39.5%）から大きく反発したものの、都市封鎖の影響が出た過去２四半期分の落ち込みを取り戻すことは出来なかった。反発後も危機前（昨年10～12月期）の水準を4.3%下回っている。既報の国別計数は、ドイツ（同＋8.2%）、フランス（同＋18.2%）、スペイン（同＋16.7%）、イタリア（同＋16.1%）、オーストリア（同＋11.1%）が揃って反発した。
- 需要項目別の内訳が公表されているフランスは、在庫投資が成長率の押し下げに働いたものの、個人消費、政府消費、総固定資本形成、輸出、輸入が揃って大幅に増加し、4-6月期と真逆の動きとなった。また、具体的な数字は公表されていないが、統計局の発表によれば、ドイツは個人消費、設備投資、輸出が成長を牽引した。史上最大の伸び率を記録したとは言え、段階的な都市封鎖解除の影響で、止まっていた経済活動が動き出したことを反映したに過ぎない。
- ここにきて欧州各国を感染第二波が襲っている。当初、地域や対象を限定した行動制限で対処していた主要国が軒並み全国的な都市封鎖の再開を余儀なくされている。春の第一波の時のような全面的な経済活動の停止には至らない模様だが、それでも景気の再失速は不可避。今後の感染動向次第だが、10-12月期の成長率が再びマイナス圏に転落する可能性が高まりつつある。

■ユーロ圏主要国の実質ＧＤＰ成長率（前期比）



出所：Eurostat

■ユーロ圏の企業景況感（ＰＭＩ）の推移



出所：IHS Markit

■ユーロ圏ＧＤＰ（前期比年率＜%＞、括弧内は寄与度＜%ポイント＞）

	名目ＧＤＰ	実質ＧＤＰ	内需					外需		
				個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫		輸出	輸入
18/10-12月期	4.2	1.9	(4.3)	1.7	2.0	17.9	(▲ 0.5)	▲ 2.5	4.3	10.7
19/1-3月期	3.5	2.1	(▲ 1.3)	2.4	2.5	▲ 6.6	(▲ 1.6)	3.4	3.8	▲ 3.2
19/4-6月期	2.2	0.5	(6.4)	0.8	1.7	28.0	(0.4)	▲ 5.9	0.5	14.7
19/7-9月期	2.7	1.3	(▲ 4.4)	1.4	2.4	▲ 18.6	(▲ 1.0)	5.7	2.5	▲ 9.1
19/10-12月期	2.6	0.2	(4.0)	0.4	1.2	24.6	(▲ 1.2)	▲ 3.9	0.1	9.0
20/1-3月期	▲ 12.4	▲ 14.1	(▲ 11.9)	▲ 16.9	▲ 3.0	▲ 18.9	(2.2)	▲ 2.1	▲ 14.4	▲ 11.2
20/4-6月期	▲ 37.0	▲ 39.5	(▲ 36.4)	▲ 41.0	▲ 9.6	▲ 52.7	(▲ 0.5)	▲ 3.1	▲ 56.6	▲ 55.5
20/7-9月期	—	61.1	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。